

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4111611085
法人名	医療法人社団栄寿会
事業所名	グループホーム 栄寿荘
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1 (電話) 0952-86-5685

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成21年2月12日

## 【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 3 日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	16 人	常勤	13人,	非常勤	3人,	常勤換算	12.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋造り
------	--------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	1,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 950円 おやつ 150円		

### (4) 利用者の概要(11月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	嬉野温泉病院・白石保養院・川崎整形外科医院・小柳歯科・山口耳鼻咽喉科
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医院と併設された敷地にあり、建物は明るく開放的で、広いリビングがある。地域のボランティアの方が、レクリエーションや掃除など協力的に活動されている。スタッフの研修にも力を入れ、外部の情報を取り入れながら、チーム全体で向上していけるように皆で協力されている。一人ひとりを大切にしたいケアが出来るようにチームとして取り組む、職員の前向きな姿勢が感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、運営推進会議の活用について取り組みがほしいという結果をもとに、一方的な報告のみならず、参加者から意見をもらい、認知症の研修など参加者の意見を反映した取り組みになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員に評価の内容を回覧し、全員が把握して、改善に取り組めるように意識づけている
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの一方的な報告のみならず、参加者から意見をもらえるようになってきている。町から、高齢者を対象にした認知症の研修の依頼もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	健康状態は随時電話で連絡している。毎月の「個人便り」には、写真を多く使い、利用者の表情や生活が伝わるように工夫している。家族の希望には、速やかに対応できるようにスタッフ間で話し合わせ、対応策は家族へ説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区役員の方々や近所の方から、地区の行事参加の声かけがあり、積極的に参加している。地区婦人会の清掃のボランティアの受け入れも行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設者の認知症介護の体験から、「地域で安心した暮らしが続けていかれるように」との思いから、管理者と職員全体で話し合い作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝のミーティングで唱和している。1年前から、「五省」の唱和も取り入れ、日々の仕事を振り返る機会としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区役員の方々や近所の方から、地区の行事参加の声かけがあり、積極的に参加している。また地区婦人会の清掃のボランティアの受け入れも行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に評価の内容を回覧し、全員が把握して、改善に取り組めるように意識づけしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の評価で、運営推進会議の活用について取り組みがほしいという結果をもとに、一方的な報告のみならず、参加者から意見をもらい、認知症の研修など参加者の意見を反映した取り組みになっている。	○	運営推進会議で参加者の意見がもらえるようになってきているが、会議の記録が整理されていないため取り組みの状況が皆に伝わりにくい面もある。記録を整理することにより、スタッフ間の情報の共有ができると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者とともに役場へ手続きに行ったり、町主催の行事に参加することによってかかわりを持ち、気軽に話ができる関係を作っている。町から、高齢者を対象にした認知症の研修の依頼もある。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態は随時電話で連絡している。聴覚障害の方には、メールを利用して報告している。毎月の「個人便り」には、写真を多く使い、利用者の表情や生活が伝わるように工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を伺ったり、面会時に声かけをするなど家族の意見を聞くよう努めている。家族の希望には、速やかに対応できるようにスタッフで話し合い、対応策を家族へ説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内のスタッフ異動は利用者のダメージに配慮し最小限にしている。担当が交代する場合も、利用者との関係づくりに重点を置き、しばらく一緒に仕事をしながら引き継ぎを行うなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の希望者には、研修へ参加出来るようにしている。また、研修後施設内で報告会を行い、職員全体の質が向上するように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加や近くの事業所との情報交換や相談等、ネットワークづくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に出来るだけ本人や家族に見学に来てもらい、一緒に過ごしてもらう時間を作りホームの生活を感じてもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフが、料理を教えてもらったり、今までの経験を聞かせてもらうことで、利用者から学び支えあう姿勢を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で上手く関わりが持てない方には、肩をもんだり・さりげなく声かけしたりして、出来るだけ関わりが持てるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、本人・家族の意向を確認し、スタッフ全員の意見を事前に書類に記入してもらい、関係者の意見が反映されるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、毎日の状態を見ながら、変化がある時にはカンファレンスで話し合い、計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は家族が対応されることもあるが、家族が出来ない場合はスタッフが付き添うなどして、家族等への負担にも配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に家族が受診の付き添いを行うようにしている。かかりつけ医以外で受診が必要な場合は、家族と相談しながらスタッフが付き添うなど柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、説明し同意書を作成している。病状に応じて話し合いの機会を作り、随時方向性を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ボランティアなど外部の方の訪問には、個人情報保護の説明や同意書をもらうなどして、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の仕事を優先しないように、日頃から仕事を振り返る機会を作り、利用者本位の暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜作りをし、収穫されたものを調理したり、準備や片づけを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否される場合には、清拭や足浴などで対応するなど、一人ひとりの気持ちを大切にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	貼り絵が好きな方は、その得意な分野で活動出来るように、出来上がった作品を作品展に出品したりしている。また、気晴らしには買物に出かけたり、散歩に出かけたりなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別にドライブや外での日光浴・散歩など外出の機会が持てるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は玄関にセンサーをつけ、危険が無い様に見守りをしているが、ホームの前に道路があり、車も多く危険があるため職員が少ない昼間の短時間は施錠をしている。施錠の弊害については職員は理解をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、区長さんや近所の方・地区消防団など協力を得て実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算をされた食事を提供している。個々の食事量も記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングには、椅子やソファが置かれ、好きな場所でくつろぐことができる。外が見渡せる広い窓に面して椅子がおかれ、花や木の様子から季節を感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みで写真や椅子・仏壇などが持ち込まれている。必要な方には、ベットに柵を着けるなど安全面にも配慮している。		